

1

本の未来、読書の未来、そして研究の未来

The Future of Books, Reading, and Research



Speaker Profile

マイケル A. ケラー

Michael A. Keller

スタンフォード大学図書館長

ハミルトン大学(1967年、生物学・音楽学の学士号)、ニューヨーク州立大学バッファロー校(1970年、音楽学修士号)、ニューヨーク州立大学バッファロー校(1973年、音楽学博士課程単位取得退学)。1973~1981年、コーネル大学音楽図書館員、音楽学の講師。その後、カリフォルニア大学バークレー校にて音楽図書館に勤務。その傍ら、スタンフォード大学にて音楽学を教え、ダックルズの Music reference and research materials として知られる音楽学の基本書誌約3500の解説書の全面改訂に着手した。1986年、イェール大学図書館副館長兼収集部長。1993年、スタンフォード大学 Ida M. Green 図書館長。1994年から現在まで、スタンフォード大学図書館長 (University Librarian) 兼学術情報資源センター長 (Academic Information Resources)。1995年に HighWire Press を設立し、発行人となる。

2000年4月、スタンフォード大学出版 (Stanford University Press) の発行人。

ケラー氏のスタンフォード大学における仕事は2つの軸をもっている：一つは研究資料の特徴的な収集であり、もう一つは情報技術の活用による学術研究活動の支援である。

Abstract

昨年12月中旬、Google社と5つの有力大学図書館が推進する図書館所蔵書籍の大規模電子化プロジェクトが発表されたが、これはWebが主要な情報供給源としてどんどん成長しつつあるという強烈な印象をごく普通の人々にも与えた。本講演では、このGoogle printプロジェクトや同種のプロジェクトがもたらすWeb上での情報探索という課題について展望する。また、その他のトレンドや可能性として、著作権法の改変、さまざまな情報技術の応用、あるいは新しい種類のコミュニケーションの成立などに触れ、それらが地球規模でのデジタルライブラリ構築にとって重要な側面であることを示す。数十年あるいは数世紀にも渡って文化的な知識を保管していくことは、研究図書館や究極のアーカイブ構築の使命や機能であるが、そのためにはデジタル情報を長期間保管することが基本となる。

以上の観点から、本の未来、読書の未来、そして研究の未来について考える。